

第24章 この章では、モンテスマの使者たちがどのようにチャル[コ]へ戻り、彼らの下した決断を知ったか、そして、チャルコ人はそう望まなかったことについて扱う。

使者たちはモンテスマとシワコアトルの思惑と要求を理解すると、チャルコへ自ら向かった。そして、そこへ到着すると、クアトレコアトル、クアテオトルとトンテオシウキの館を訪ねて、その要求を伝えた。クアテオトルとトンテオシウテウクトリ〔トンテオシウキ〕はこれを聞いて、口を揃えて答えた。「有力者たちや領主たち、その他すべてのマセワルたちや臣下の者たちの反発を前に、我らができることとは、それに応じず、メシーカがほしがる石を渡したくないと嘲る以外に、どのような返事ができようか？メシーカよ、この返答を携えて帰り、おまえたちの王と領主たちへ、チャルコが答えたことを伝えよ。チャルコは、自衛のために、武具や紋章、盾、木剣、弓矢を手にとろうとすらしているのだ。」メシーカ人はチャルコ人のもとを去り、メシコ=テヌチティランへ戻った。そしてモンテスマとシワコアトル・トラカエレルツィンの前で、彼らがチャルコから持ち帰った、陰悪な返事について説明すると、二人は口を揃えて「ご苦勞であった。仕事の勞をねぎらい、休息せよ。そして、どうなるかはやがてわかるだろう」と言った。2、3日を経て、モンテスマとトラカエレルは会った。モンテスマはこう言った。「チャルコが我らに送ったこの返答について、汝はどう思うか？我らの軍勢が彼らに向かうのは良いことなのか？汝の思うところを示してくれ。汝は知ることにおいても命じることにおいても、第一の者なのだから。」トラカエレルはこう答えた。「王よ、それはよくない。そうするのは、よいこととは思えない。それよりも、〔チャルコ人が〕我らの元に向かって来ているのか、どのあたりで斥候たちが我らを待ち構えているのか、二人の若い重臣たちを見に行かせよう。彼らが向こうにいるのを見かけたら、彼らの寝込みや、不意を突いたと言われぬように、我らは彼らの元へ向かおう。」モンテスマは「そのやり方がふさわしい。誰が我らの斥候となるのか？」と言った。トラカエレルツィンは「王よ、汝の重臣であるシコアオクとテナマストリ・テウクトリに行かせよう」と言った。それからモンテスマはその者たちにこう言った。「メシーカたる兄弟よ、ここへ来るのだ。汝らは、チャルコたちとの境界において、彼らがいるとおぼしき場所を見てくるのだ。彼らがなにをしているか、チャルコの斥候たちがいるか、そして、どの場所で彼らと戦えるかを見て把握せよ。」二人の重臣た

ちは、「すぐに出発します。もしそれらを目にすることがあれば、そこから大急ぎで戻り、お知らせします」と言った。トラカエレルツィンは、「それを迅速に行わねばならない」と言った。こうして〔二人は〕テチチコという場所に到着したが、人の姿は見えなかった。さらにアスタアパンまで進んだが、誰もいなかった。さらにクエショマティトランまで進むと、そこで彼らは、どのように人が少しずつ集まっているかを目にした。¹二人のメシーカ人は大急ぎで戻った。そして、チャルコ人たちがどのように彼らのやり方で、直線状の陣形を取っていたかを伝えた。彼らは戻り、モンテスマへ「王よ、これが、クアショモティトランのあたりのチャルコの陣営で我らが見たことです」と言った。それを聞いたモンテスマは、彼らに「兄弟たちよ、休息せよ。そして、汝らの武具を用意するのだ」と言った。そしてシワコアトルと「汝は、これらのチャルコの者たちがどうなっているのか、何が起きているのかをもはや耳にした。汝は、今何をすべきだと思うのか」と話した。トラカエレルは答えて、こう言った。「トラアカテカトル〔トラカテカトル〕とトラコチカトルへ伝えて、この国中に、各地区や戦士の学校(テ
ルプチカルコ〔テルポチカルコ])に対して、この戦争〔が始まること〕を知らせよう。」その後、これを知ったトラカテカトルは、容赦ない激しい口調で、このことを人々に告げた。そしてカカマツィン²も同じようにして、彼らにこう言った。「さあ、メシーカたちよ、備えよ。今こそ、大いなる栄光、大いなる勝利、多くの奴隷、多くの土地が我らの元にもたらされるのだ。チャルコは勇敢であろうが、しかし、メシーカの前に立ちはだかることはできない。汝らは、猛々しく、勇敢な虎であり、ライオンであり、驚なのだから。そして、汝らの武具をすべて手に取り、夜明けに、アスタワカン³へ行け。勇敢な心で、汝らが自らチャルコの陣営を攻めるのだ。」そして、翌日、メシーカ軍はイスタパラパンで夜明けを迎えた。先行している偵察隊は「メシーカよ、チャルコは我らの元にいるぞ」と言った。戦争に必要なものを全て用意してから、大将トラカエレルは〔こう言った。〕「さあ、メシーカたちよ、恐れるな。彼らはライオンでも、虎でもなく、彼らの武具は汝らのものよりも優れているわけでもない。時は来た。さあ、皆の者、ウィツイロポチトリのご加護があらんことを。」チャルコ人たちは叫び始め、「さあ、メシーカよ、今が、チャルコの方と、メシーカの方が、示されるときだ」と彼らに言った。そして、メシーカ人たちはチャルコ人たちに「チャルコよ、我ら

¹ チャルコ領内の地名（いずれも地点不明）。

² テスココ王でネサワルコヨトルの息子。

³ 語彙集によれば、メシーカとチャルコの境界となるイスタパラパンのチナンパ地域。

はこのためにやって来た」と言った。そして、トラカエレルは声を張り上げてこう言った。「メシーカたちよ、行け、行くのだ。やつらは少数で、たいした勇気もないのだ！」メシーカ人たちは雄叫びをあげて「一人たりとも生きて帰すな!」と言いながら、激しく攻撃を仕掛けて、大きく距離を取りながら戦った。そして夜が来ると、チャルコ人たちは言った。「メシーカよ、我らがはじめたこの戦いは、5、6日でも、10日でも終わることはないだろう。もう夜だ。おまえらは休息しに家に行け。そして明日、同時刻におまえらを待つ。」メシーカ人はこれに同意し、双方が互いに警戒しながら、それぞれの町へと戻っていった。テヌチティランに到着し、戦況および彼らが取り決めたこと、そして彼らは最後まで立ち止まらなかったことをモンテスマへ伝えた。モンテスマは、チャルコ人相手に必要不可欠であるところの大いなる勇気に触れた。トラカテエカトル〔トラカテカトル〕とアトリスカトル〔とシワコアトル〕⁴はこう答えた。「王よ、そのようなことは、我らを怖気付かせず、怖がらせることもできない。そして、汝の王国の、我らがそうであったところの昔のことを思い出せば、我らの祖先もそうであり、チャプルテペクで取り囲まれたときには、様々な類の敵と戦った。当時の我らの祖先たちは、今の我らの軍勢に比べれば、余りにも少なかったが、彼らは全員を打ち負かした。そして、メシーカの大いなる勇気を前に、彼らはみな逃げたのだ。何事も恐れるな、我らは、メシーカの祖先であるチチメコ〔チチメカ〕の末裔なのだ。今すぐ、各地に斥候たちを派遣せよ。この状況に鑑みて、加えて、各方面⁵へと見張りに行かせよう。我らが屈服させているアスカプサルコ、タクバ、クユアカン、ソチミルコ、クイトラバク、ミスキク、テスクコを、チャルコがそそのかして、彼らが蜂起しないようにだ。」モンテスマは「シワコアトルよ、よくぞ言った。このために、トリルポトンキ、トラカコチトクと新参のメシーカたちを行かせよ」と言った。そして、彼らが行くと、どの道も町も平穏だったので、彼らはメシコに戻った。そして、その報告がなされると、モンテスマは「これを王国の自衛策として、5日毎に行わねばならない」と言った。

【訳：岡崎雅子 2026/03/20】

⁴ 異本(AGN版)では、トラカエレルツィンの名前が併記されている。後述のモンテスマの台詞「シワコアトルよ、よくぞ言った」との対応性から、シワコアトルを補記した。

⁵ [メシーカの四方向の道を通して]